

【資 料】

『盗賊配分金銀之辨 全』 解題と翻刻

宮 澤 照 恵

資料

『盗賊配分金銀之辨 全』 解題と翻刻

〈解題〉

本稿は、京都大学文学研究科図書館蔵の写本『盗賊配分金銀之辨 全』の翻刻紹介である。国文学研究資料館『日本古典籍総合目録』では「雑記」に分類され、本稿で底本とした京都大学文学研究科図書館蔵本のみが記載されている(ただし同データベースには「京都大学図書館蔵」とある)。諸本については未詳である。成立は奥書から正徳五年三月と考えられる。本書には、後筆と思われる音合の符号、振り仮名、送り仮名、返り点、白丸点、朱引きなどが朱によって多数施されており、音読による享受がなされた可能性が高い。

考察は別の機会に譲ることとして、ひとまず本書の性格を列挙すれば、次のようになるう。

○何らかの教導や唱導と結びついて享受された可能性の高い資料である。

○盗賊説話が成長し、講釈等に利用されていく展開の一面を示す資料である。

○江戸時代小説などの当世批判に一脈通じる、識者による講義用ノートや掌篇雑記の類と考えられる。

○表記や使用語彙等を含め、儒学を援用した民間教化の一端を示

す資料である。

○宝永・正徳期における京都在住の儒学者(識者)の有り様、及び朱子学をめぐる諸相を示唆する資料である。

何れにしても、楷書で丁寧に記されていること、並びに初筆大字の行数や字数が整っていることなどから推して、後世に残そうとする著者の意図があったことは明らかであろう。

話の導入及び縦糸として利用され、題名にも採用されている「盗賊配分説話」そのものについても触れておこう。同趣向の咄は、既に『醒睡笑』(広本系写本)巻三に見える。ここでは、仲間内の誰かが戦利品の一部を盗んだことは明白であるにも拘わらず、頭目は「仲間」の長い人間はいない」と笑ってすませる、という笑話仕立てになっている。対するに、本書の作者「恕子」は同趣向の題材から笑いを切り離し、教化を前面に押し出している。頭目の言葉を文字通りに解すること、盗賊の格物と視野狭窄を示し、「自分たちの有り様を客観視できない」当世学者批判・半可通批判に繋げるのである。一方、盗賊達の戦利品分配中に紛失した「二朱判」は元禄十年六月に始めて鑄造されたもので、この時のものは宝永七年四月まで通用していたとされる(『図録

宮澤 照 恵

キーワード…盗賊配分金銀之辨 翻刻 解題 教化 儒学

日本の貨幣 3」。そうであれば、本書の初稿成立時期は自ずから限定され、奥付の正徳五年から若干遡るということになる。身近な盗人配分説話に、わずかに二・二一グラムの「二朱判」が取り込まれることによつて、説得力と臨場感、同時代性が加わり、俄然生きた話になつたと言えよう。

なお、翻刻紹介者は、この説話部分に『西鶴諸国はなし』巻一「大晦日は合はぬ算用」と相通ずるものがあると考えているが、この点については稿を改めて論ずる予定である。

〈書誌〉

所蔵 京都大学文学研究科図書館蔵写本。(国文学/Nq/9)
書形 大本。一冊。仮綴。

表紙 原装、本文共紙。縦二十三・六cm×横十七・二cm

外題 「盗賊配分金銀之辨 全」中央墨直書

内題 なし

字高 十六・五cm(二丁表)

字数 大字一行十一字、ただし「註」は二段下げ一行九字。大字に

ついては、字数・行数・字高共に統一性が見られる。

行数 八行、ただし一丁表のみ七行。

補筆・後筆 墨右寄小字による送り仮名の補筆、朱による送り仮名・

振り仮名・返り点・白丸点の後筆、書名・人名・年号・地名への朱引。

句読点 朱後筆白丸点。ただし、結語を除く十丁裏五行目以降の漢文
体部分には句読点がない。

丁数 本文十五丁、奥付〇・五丁。紙数一六丁。

(11)

丁付 なし

框郭 なし

奥付 十六丁表「于時／正徳五未年清明日／洛陽二条於于嵯峨口書之／奈佐氏／恕子」

印記 単郭朱方印(四・五cm)「京都大学図書之印」、双郭墨墮円印(三・六cm×五・二cm)「京大／854595／昭和24. 1. 12」

〈凡例〉

一、翻字に際しては、原本を尊重しつつ印刷の都合及び通読の便を考慮して、表記形式等を工夫し改めた所がある。

一、本文は、原本の丁付・配行にかわりなく追い込みとした。ただし、各丁の表・裏の末尾に(2ウ)の如く丁付を記した。

一、読みやすさを考慮して、挿話の箇所などに私意による段落を設け、会話には「」を付した。行アキ・付註は原本のとおりとした。

一、墨補筆は、原本に倣い右寄の片仮名小字で翻字した。

一、漢字は原則として通行の字体を用いた。慣用表記については、正字を括弧に入れて示した箇所がある。

一、「(イフ)ココロ」や合字体の「トモ」「コト」「(ト)シテ」「シメ」などは、それぞれ通行の表記に開いた。仮名の「子」は「ネ」とした。

一、原本には一ヶ所(一丁裏六行目「者ハナキガ」)を除いて濁点がないが、翻字文では私意により濁点を付した。

一、原本の朱筆による白丸点は、翻字文では読点または句点によって示した。十丁裏五行目以降の句読点がない約五丁分については、私意により句読点を加えた。

一、原本の朱筆による音合の符号は、翻字文では原本の位置に「一」を付すことによつてこれを示した。

一、朱筆・朱引・音合の符号などは、次の記号によつて示した。

「一」 朱による加筆

一 音合の符号

(一) 翻字者による注(正字・送り仮名・振り仮名等)

□ 朱引一本線

□ 朱引二本線

〔翻刻〕

盜賊配分金銀之辨 全

アル所ニ、童^{〔ハ〕}共寄^{〔リ〕}合^{〔ヒ〕}、物^{〔ナカ〕}語シ居ケル中ニ、

一一人語ケルハ、「盜^{〔トウ〕}人金ヲ盜^{〔ドリ〕}」取テ、同類寄^{〔リ〕}集^{〔リ〕}、

頭^{〔トウ〕}取ノ大^{〔ドリ〕}將、下^{〔トウ〕}知シテ、配^{〔リ〕}分ニ及ブ時、小^{〔リ〕}判小

粒^{〔リ〕}ノ中ニ、二^{〔ウチ〕}朱^{〔ウチ〕}判^{〔マシリ〕}一^{〔マシリ〕}交^{〔リ〕}アリ。各等^{〔ウチ〕}分ニ、分ケ与

ヘテ後ニ、「カノ二^{〔ウチ〕}朱^{〔ウチ〕} (一オ) 一^{〔ウチ〕}判^{〔ウチ〕}ハ」ト問ヘバ、「コ、

ニモ無シ、カシコニモ見ヘズ」ト云テ、兎^{〔ウチ〕}角出ズ。『今

迄爰ニ有シ』ト、尋レドモナシ。其^{〔ウチ〕}時、頭^{〔ウチ〕}取^{〔ウチ〕}アキレ

テ、「サテモ不^{〔ウチ〕}審也。此^{〔ウチ〕}中ニ、手ノ早キ者ハ、ナキガ

ト云テ、笑テ、分^{〔ウチ〕}散セシ」ト語テ、笑ヒドヨメキヌ。

予、是ヲ聞テ思フ。(一ウ) 今ノ学^{〔ウチ〕}者ハ、聖^{〔ウチ〕}賢ノ心^{〔ウチ〕}

ヲ、知^{〔ウチ〕}リ得^{〔ウチ〕}タリト思ヒ、其^{〔ウチ〕}志^{〔ウチ〕}ヨリハ、慎^{〔ウチ〕}ミ、謙^{〔ウチ〕}譲^{〔ウチ〕}ノ

心、イサ、カナク、広ク、聖^{〔ウチ〕}経^{〔ウチ〕}賢^{〔ウチ〕}ノ伝^{〔ウチ〕}ノ旨ヲ、発^{〔ウチ〕}明^{〔ウチ〕}シ

タリ。易^{〔ウチ〕}経^{〔ウチ〕}ヲ能^{〔ウチ〕}通^{〔ウチ〕}達シ、常ニ、「是而^{〔ウチ〕}己用^{〔ウチ〕}之^{〔ウチ〕}」

ナド云ヒ、「程^{〔ウチ〕}朱^{〔ウチ〕}ニ誤^{〔ウチ〕}リ多キ」ナド、広^{〔ウチ〕}言^{〔ウチ〕}ス。又、「是

等ノ見一解違ヘリ。予ハ、(2オ) 朱子派ノ学ヲ、尊一信ス」ト云ヲ聞「ケ」バ、朱子流ト題一号シ、是モイツシカ、朱文公ヲ、腰ニ付タルヨウニス。聖一門ノ学ニ、何一流、何一派ノ学ト云事ヲ聞ズ。学ヲ誰ニ受ク、誰ニ授「ク」トハ見ヘ侍ル。聖一門ノ外ニ、自一見、自一悟ヲ建一立シ、誰「レ」流、何「三」派、(2ウ) ナド云フ、異一端ノ輩ハ、名一目品「タ」アリ。是「レ」悉ク、学之門ニ志シト、教「ハ」ト、此二ノ差ヨリ、一歩万一里ノ違「ヒ」ト成テ、追「ヒ」月「ヲ」経「ル」年「ヲ」ニ随テ、日一用当一行ノ教ニ離レ、益「ス」、自一得不肖ノ身ノ、助ト成「ル」事無シテ、翔「リ」虚一遠「ニ」、身ヲ害ヒ、学ヲ廢ルニ至ル。吾先一生ノ(3オ) 教ヲ貴「ミ」テ、入一德受一用ノ学ノ、至一尊タル事ヲ、深ク信一用セザランヤ。其「レ」利一害得一失、挙「テ」之「ヲ」記「ス」ニタラズ。

近思録 二曰、人謂「ハ」要「スト」力一行「ヲ」、亦一只是、浅一近「レ」語、トアリ。不一幸ニシテ、時ニ会ハズ、聖一賢ナリト思ヒ、自モ言ニ含ミ、書ニ顯「ス」ハ、甚「ク」誤タル非「ス」哉。又、行(ハ)ズンバ、学「ニ」非「ズ」ト、專ニ勸「ス」教ユ。知「ル」一「ツ」成「ル」事ヲ、曾テ、知「ラ」ザルニ出ツ。

(四)

茲ニ、遠一國ヲ隔「テ」闢一劍ノ術ヲ、互ニ、無「ク」間一断一修一行ス、同門ノ者アリ。年久「シ」ク對一話セズ。アルトキ、西一國ノ師ヨリ、弟子ノ中業「能」ク、第一ト思フ者ヲ、東一國ノ師ノ所(4オ) へ、差「下」シ、見「舞」ト称「シ」テ、劍一術ノ位ヲ窺「ハ」シム。東國ニ下一向シ、互ノ安一否尋「テ」問ヒ、事「終」ルト、東一國ノ師一匠ガ云ク。「定「メ」テ其方(ガ)師一匠、心一術共ニ、上一達シタラメ。如「何」ヨウノ事ゾ」ト尋ヌ。弟子ノ曰「ク」。「吾「ガ」師、西一國ニ並「ビ」者無シ。ヲヨソ、無一形ニ至ル」(4ウ) ト答フ。又問フ。「師モサヨウ云ハル、カ」ト尋ヌ。「成ホド師モ、『恐ル、者ナシ。予ハ、無一形ノ兵一法ナルト、人モ譽「ス」、尤吾モ得タリ。習ヒ学(ブ)ベシ』ト宣「フ」ト云フ。其「レ」時東一國ノ師、大ニ欺「ク」笑テ、「此上、聞「ク」ニモ、見「ル」ニモ及バズ。心一術トモニ、昔ニ替「ハ」ズ(5オ) (ラ)ズ、同「レ」位「ヒ」ニ留「リ」テ、ワル功付テ、返(却)テ下一段ニ、位スト見ヘヌ。自一讚其「レ」驗「シ」明「カ」也。況、其「レ」方「レ」劍一術ニハ、無一形ト云「フ」詞ハ云「ヒ」テモ、心ニ得ル場ニモ、眼ニ見ユル所ニモ非ズ。師一匠一殿サヘ知レタリ。書一中ニ、秘一藏ノ弟子ト

アリ。斯ク云テモ、実ニ仕合(ハセテ)(5ウ) 見ザレバ、知
 レズ」トテ、立合ケレバ、元ヨリ未熟故、悉ク打落シ、
 蹴落シナンドシテ、遙ニ遠キゾ。「随分修行セラルベシ。
 此方ナド、此一事、多一年一筋ニ、余事ナク、間断
 セズシテサヘ、意味位ナド、深長ニシテ、死スルマデ勤(メ)
 タリトモ、(6オ) 望ミノ場ヘハ、到着ナルマジト、思ハ
 ル、ト謂テ、返シケルトゾ。

是ヲ彼レヲ思フニ、能々慎(ミ)テ、実ニ、觀察スベキ
 ニ非(ズ)ヤ。聖賢ハ一一生終ヒニ、聖ナリトハ知(リ)給ハズ。
 外ヨリ聖ナリト、称シ奉テモ、尚、イサ、カ、ソレトハ思シ
 召給ハズ(6ウ) ト見ユ。当世ノ人、物学ブ族、吾等
 如キハ、少、耳ウタセシ事ハ、早、自得シタリト合(ハ)点シ、
 意味、位ノ場ヲ知ラズ、外ニ云ヒケラシ、行フナド、心
 得ユ。智徳アル人ニ、愚慮短才ヲ、見搜(サ)レ、自ラ
 恥ヲ顯シ、笑ヲ招(ク)ト云ツベシ。呼鳴、慎ミ顧テ、(7オ)
 恐レ守リ、勤(メ)ザランヤ。

カノ盜賊ハ、拙ク、非道ノ至極、賤キ道ト云ヘドモ、
(トモガラ)
 入り入テ、己(レ)モ徒モ、己(ガ)身、盜人タル事ト、人ノ財ヲ、

盜(シ)奪(フ)ト、盜タル心モナク、我物ノ如(ク)ニ思フ。是(レ)
 モ、盜ノ格物無(ク)間断、積累ノ功、至リ至テ、不
 思不(レ)知ノ、自一然ト云ツベ(7ウ) シ。此等ノ意味、
 能(ク)勘弁シテ、察セザルベケンヤ。魚ハ水一中ニ住故(ク)
 ニ、水ニ住(ム)ト云(フ)コトヲ不知。人ハ道一中ニ居テ、
(ヲ)
 道ノ中ニ居ル事ヲ不顧。湏更(須臾)モ道ノ、離レヌ
 事ノ、教ヲモ自一得セズ。

盜人モ忍テ、人ノ財一宝ヲ盜メバ、善道ヲナス(8オ)
 トハ、思ハネドモ、性質アシク、彼道ニ沉溺シ、入(リ)
 入テハ、左ノ如(ク)ニコソ思(フ)ラメ。魚モ過(ア)テ、網ニ掛リ、
(アケ)
 鉤ニ上ラレテ、水ヲ離(レ)テ水ヲ知(レ)リ。人モ、理ヲ背(ヒ)
 テ、運ツキ、道絶(ハ)テ、一理ノ中ニ、孕(ハ)レナガラ、道
 ヲ破(リ)テ害ニ逢ヒ、至(テ)茲(ニ)、非道ヲ悔(ユ)。(8ウ)

世ノ学者、聖人ノ道ハ、天一地ト等(シ)ク、高一明無窮ノ、
 深理アル事ヲ不知。意味、位ノアル事ヲモ、曾テ不(レ)弁
 シテ、記聞ノ、雜博(駁)一学問ヨリ、管見ヲ以(テ)、
 自ラ称(シ)テ、聖域ニ至リト覚ヘ、聖賢ノヨウニ思ヒ、
 聖賢ノ経一伝ニ、善一悪ヲ評ス。誠ニ、惑(ル)(9オ) ノ、

甚^キニ非^ズ哉。志^ス所違^ヒテ、学ヲ誤リ侍ルヨリ起ル。
依^レ之^ニ、至^レリ、知^レリト思^ヒテ、言^ニ發シ、書^ニ記ス。
是^レ全ク、入^レ德ノ門ニ望^ムニ、相^ヒ似タリト云ヘドモ、
志^ス所ニ違^ヒ有^テ、実^ニ地ヲ不^レ踏^マ。取^ベキ物ハ、採
テ試^ミ、可^キ踏^ムモノハ、踏^テ不^レ試^ミ。入^レリトシテ、
(9ウ) 出^ルノ違^ヒ、可^キ恐^ルノ甚^キナリ

彼^レ盜^リ人ノ頭^ヲ取^リニハ、善^ニ惡^ニ異^リト云ヘドモ、実^ニ
地^ニ至^リ不^レ到^ラハ、拔^キ群^ニ非^ズ劣^ル哉。心ヲ付テ
ナスト、自^ラ然^ト、意^ナクシテナストハ、黒^ク白^クノ差^ト可^シ
知^ル。

弥^チ、先^ニ生^ノ教ヲ守^リ、サシウツムキテ、反^ラトシ己^ニ、
实^ニ、格^ノ物致^シ(10オ) 一知^ノ功ヲ積^テ、其^レ物其^レ
事ノ理ヲ、一ツく、能^ク自^ラ得^シ、最^ニ吟問^ヲ断^ナフシテ、
勤^ニ学^ヲ厚^クカラシムルノ、外^ニナカルベシ。

君^ノ子^ノ之道^四「**丘**」未^ク能^ク「**丘**」焉。所^レ
求^ル乎^ニ子^ノ以^テ事^ル父^ノ、未^ク能^ク也。所^レ
求^ル乎^ニ臣^ノ以^テ事^ル君^ノ、未^ク能^ク也。所^レ求^ル

乎(10ウ) 弟^ニ以^テ事^ル兄^ノ、未^ク能^ク也。所^レ
求^ル乎^ニ朋^ノ友^ノ先^ニ施^ス之^ヲ、未^ク能^ク也。
庸^ノ德^之行^ヒ、庸^ノ言^之謹^ム。有^レ所^レ不^レ
足^ラ、不^レ敢^テ不^レ勉^ム。有^レ余^リ不^レ敢^テ
尽^ス。言^ノ顧^ル行^ハ、行^ハ顧^ル言^ハ。君^ノ子^ノ胡^ニ不^レ
々^ニ爾^ナ。

註

求^ル猶^シ責^ル也。道^不遠^{カラ}人^ニ。凡^シ
己^ガ所^レ以^テ責^ル人^ヲ者^ハ、皆^シ道^ノ之^レ(11
オ) 所^レ当^ル然^ル也。故^ニ反^ラトシ己^ニ、
以^テ自^ラ責^テ、而^シ自^ラ修^ム焉。庸^ハ
平^ニ常^{ナリ}也。行^ハ者踏^ム其^レ實^ヲ。謹^ハ
者扱^ニ其^レ可^ク。德^不足^ラ而勉^ム、則^シ行^ハ
益^ク力^ム。言^有余^リ而詘^ム、則^シ謹^ム益^ク
至^ル。謹^ハ之^レ至^リ、則^シ言^ハ顧^ル行^ハ矣。
行^ハ之^レ力^ム、則^シ行^ハ顧^ル言^ハ矣。慥^ニ慥^ニ
篤^ニ實^ニ顔^ニ、言^ハ君^ノ子^ノ之^レ言^ハ(11ウ) 一^ニ行

如^レ此^一。豈不^レ慥^一乎。贊^ニ義^一スル
之^一也。凡^レ此^一皆不^レ遠^一人^三。以^レテ
為^レ道^一之事、張子^一所謂以^レ責^一人^一
之心^一責^レ己^一、則尽^レ道^一是^レ也。

宰我 子貢 善^ク為^レ說^一辭^一。丹牛(求) 闕子

顏淵 善^ク言^一德^一行^一。孔子 兼^カ之^一

(12才) 曰、我^レ於^ニ辭^一命^一則不^レ能^一也。

然^{ラバ}則夫子^一既^ニ聖^一矣^一乎。

註

此一節 林子^一以^レ為^一皆 公孫丑^一之問^一

是^レ也。說^一辭^一言^一語也。德^一行^一得^ニ於^一心^一

而見^ニ於^一行^一事^一者也。三^一子^一善^ク言^一德^一

行^一者^一、身有^レ之^一故^一言^一之^一(12ウ) 親

一切^一而有^レ味^一也。公孫丑^一言^一之^一、數^一子

各^一有^レ所^一長^一、而孔子^一兼^カ之^一。然^一猶

猶^一自^一謂^レ不^レ能^一於^ニ辭^一命^一。今^一孟子

乃^一自^一謂^一、我^レ能^レ知^レ言^一又善^一
養^一氣^一。則是^レ兼^一言^一語德^一行^一、而有^レ之^一。
然^レ則、豈不^レ既^ニ聖^一矣^一乎。此夫^一子^一
指^ニ孟子^一。程子曰、孔子^一(13才) 自^一謂^レ
不^レ能^一於^ニ辭^一命^一者、欲^レ使^ニ學者^一務^レ本^一而^レ已^一。

曰、惡^一是^レ何^一言^一也。昔^一者^一子貢^一問^一

於孔子^一曰、夫子^一聖^一矣^一乎。孔子^一曰、聖^一則

吾^レ不^レ能^一。我^レ學^一不^レ厭^一、而教^一不^レ倦^一也。

子貢^一曰、學^一不^レ厭^一、智^一也。教^一不^レ倦^一

仁^一也。仁^一且^一智^一、夫子^一(13ウ) 既^ニ聖^一

矣。夫^レ聖^一孔子^一不^レ居^一。是^レ何^一言^一也。

註

惡^一驚^一歎^一辭也。昔^一者^一以下 孟子^一不^レ

敢^一當^一丑^一之言^一、而引^ニ孔子^一子貢^一問^一

答^一之^一辭^一、以^レ告^レ之^一也。此夫子^一指^ニ

孔子^一也。学^テ不^レ厭^ハ者、智^ノ之所^一

(14才) 以自^一明^ニ、教^テ不^レ倦^マ者、

仁^ノ所^一以及^レ物^ニ。再^ラ言^ニ是^レ何^ト

言^一也。以^テ深^ク拒^グ之^ヲ。

子^一曰、古^ノ之学^一者、為^ス己^ガ。今^ノ之学^一者、

為^ス人^ヲ。

註

程子^一曰、為^ス己^ガ欲^ス得^ニ之^ヲ於^レ

(14ウ) 己^ニ也。為^ス人^ヲ欲^ス見^レ知^ル

於人^ニ也。程子曰、古^ノ之学^一者、為^ス己^ガ。

其^レ終^リ、至^ル於成^ニ物^ヲ。今^ノ之学^一者、

為^ス人^ヲ。其^レ終^リ、至^ル於喪^ニ己^ヲ。愚^ニ按^テ

聖^ニ賢論^ニ学^一者、用^ル心^ヲ得^レ失^ヲ之^レ

際^一、其^レ說多^ク矣。然^レ未^ダ有^ル如^ク此^ノ

言^一之切^ニ而要^ス者^上。於^テ此^ニ、明^一

弁^{シテ}而日^ク省^ミ之^ヲ、(15才) 則庶^チ乎其^レ

不^レ味^ニ於所^ニ從^ル矣。

コレラノ語ヲ見テ、能ク、意^味ヲ、識^得スベキ事ニコ
ソ (15ウ)

于時

正徳 五未年清明日

洛陽 二条 於于 嗟峨口 書之

奈佐氏

恕子

本書の翻刻掲載を御許可下さいました京都大学文学研究科図書館に深
謝申し上げます。